

院長先生（調査対象：病棟医師 調査表－A）

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）分担研究

『在宅看取りの阻害要因に関する研究』

アンケート調査ご協力をお願い

謹啓

初春の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

高齢者の増加、価値観の多様化に伴い、病気をもちつつも可能な限り住み慣れた場所で、自分らしく過ごす「生活の質」を重視する医療が求められています。

私どもは入院医療の最大の目標は、いかに円滑に患者を在宅生活に復帰させるかという点にあると考えます。

平成 19 年に厚生労働省の研究費『重症高齢者等を支える在宅療養支援診療所等の量的・質的整備計画事業』において調査をしましたところ、「疾病傷病による通院困難者」に対して、約 5 割が転院、約 2 割がそのまま自院で通院し何かあれば入院という結果であり、7 割の方の在宅復帰が叶わないということがわかりました。

6 年が経過し、病院での死亡率は低下し、在宅死亡率は高くなる傾向にあります。そこで今回、厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）による分担研究として、平成 19 年の調査研究とほぼ同じ内容で宮城県内の病院の医師、総看護師長、地域連携室を対象に、震災を経た 6 年間の変化について比較調査を実施することといたしました。

ご多用中たいへん恐縮ですが、今後の厚生労働省の施策に生かされる重要なデータとなりますので、ご担当の方に回覧の上、ご回答頂きますようよろしくお願い申し上げます。

謹白

平成 26 年 1 月

分担研究者 川島孝一郎
(仙台往診クリニック 院長)

【研究代表者】

大島伸一（独立行政法人国立長寿医療研究センター 総長）

【研究課題名】

被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究

【研究事業予定期間】

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで

【分担研究名】

在宅看取りの阻害要因に関する研究

【調査対象者】

- 医師・・・・・・・・調査表－A
- 総看護師長・・・調査表－B
- 地域連携部署・・・調査表－C

【調査の実施主体】

この調査は、平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）分担研究『在宅看取りの阻害要因に関する研究』により仙台往診クリニック（院長 川島孝一郎）が行うものです。集計・解析は仙台往診クリニック研究部が実施いたします。

【プライバシーの保護について】

個人情報保護法を遵守し、得られた結果は統計的に処理して、個人が特定されるデータとして公表されることはありません。調査内容は皆様の個人情報を含んでおりますので、厳重に管理し、みだりに用いることはありません。研究成果を開示する際も、貴施設を特定するような情報は公表しません。また、この結果を本研究事業以外の目的に用いることはございません。

【調査票配布対象先】

“宮城県ホームページ医療整備課「宮城県病院名簿」の掲載病院”

【調査同意の可否】

この調査への協力を拒否されたり、同意を取り消されても今後貴施設に何らかの不利益が生じることは全くございません。

◇以上この調査の趣旨をご理解頂けましたら、以下をお読み頂き、ご回答賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

調査の趣旨を理解いたしました。（☑を入れてください。）

1. はい 2. いいえ

調査に協力することに同意します。（☑を入れてください。）

1. はい 2. いいえ

2. ご回答頂きましたアンケートは、同封の返信封筒に入れて、

1月31日(金)までにポストに投函してください（郵送料はかかりません）。

3. この調査に関するご質問やお問い合わせ等は、下記までお願い致します。

仙台往診クリニック研究部
担当：遠藤・佐々木
〒980-0013 仙台市青葉区花京院2丁目1-7
TEL：022-722-3866(平日9～17時)
FAX：022-722-3877(24時間)

このアンケートは、在宅医療適用の対象となる患者についてお答えください。
 ※在宅医療の適用患者は「疾病・傷病による通院困難な場合」となっております。ただし、癌末期の方、高度認知症で徘徊の著しい方等は、歩行可であっても適用となります。
 この原則に当てはまる患者についてのみお答えください。

1. 退院患者について

問1－1 地域医療連携室へは主にどのような経路で患者を紹介しますか。もっとも多いものひとつに○をつけてください。

- | |
|---------------------|
| 1. 医師の判断で紹介する。 |
| 2. 看護師の判断で紹介する。 |
| 3. 医師・看護師が相談の上紹介する。 |
| 4. 患者・家族が直接相談に行く。 |
| 5. その他（ ） |

2. 退院支援への取り組みについて

問2－1 退院支援（退院計画）について病院としての取り組み（たとえばチェックリストやスクリーニングシート、連携パス）はありますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. ある。
具体的に： [] |
| 2. ない。 |

3. 在宅復帰支援について

以下問3-1～問3-10は、入院患者の在宅復帰支援について、あてはまるものひとつに○をつけてください。

問3-1 在宅復帰支援の過程で、先生ご自身と地域医療連携室との間で十分に患者情報の共有がなされていると思いますか。

1. 思う	2. どちらかというと思う	3. どちらかというと思わない	4. 思わない
-------	---------------	-----------------	---------

問3-2 在宅復帰支援の過程で、地域医療連携室は十分に機能していると思いますか。

1. 思う	2. どちらかというと思う	3. どちらかというと思わない	4. 思わない
-------	---------------	-----------------	---------

問3-3 先生は退院後の生活について患者・家族に十分説明していますか。

1. している	2. どちらかというとしている	3. どちらかというとしていない	4. していない
---------	-----------------	------------------	----------

問3-4 先生は在宅医療について十分な知識や理解がありますか。

1. ある	2. どちらかというところ	3. どちらかというところない	4. ない
-------	---------------	-----------------	-------

問3-5 在宅復帰支援の過程で、先生ご自身と病棟看護師との間で十分に患者情報の共有がなされていると思いますか。

1. 思う	2. どちらかというと思う	3. どちらかというと思わない	4. 思わない
-------	---------------	-----------------	---------

問3-6 病棟看護師は退院後の生活について患者・家族に十分説明していると思いますか。

1. 思う	2. どちらかというと思う	3. どちらかというと思わない	4. 思わない
-------	---------------	-----------------	---------

問3-7 病棟看護師は在宅医療について十分な知識や理解があると思いますか。

1. 思う	2. どちらかというと思う	3. どちらかというと思わない	4. 思わない
-------	---------------	-----------------	---------

問3-8 在宅復帰支援の過程で、受け入れ側の地域の医師、訪問看護師、ケアマネジャーと、十分に患者情報の共有がなされていると思いますか。

1. 思う	2. どちらかというと思う	3. どちらかというと思わない	4. 思わない
-------	---------------	-----------------	---------

問3-9 在宅医療を依頼した診療所医師は、病院側の期待に十分応えていると思いますか。

1. 思う	2. どちらかと思う	3. どちらかと思わない	4. 思わない
-------	------------	--------------	---------

問3-10 訪問看護を依頼した訪問看護師は、病院側の期待に十分応えていると思いますか。

1. 思う	2. どちらかと思う	3. どちらかと思わない	4. 思わない
-------	------------	--------------	---------

問3-11 在宅医療適用となる患者が退院する前に、貴院医師、看護師、受け入れ側の医師、訪問看護師、ケアマネジャー、介護職などが集まって、退院後の医療、生活についてのカンファレンス等を開く割合はどれくらいですか。

約 %

問3-12 以下の項目について、患者・家族にどのようにアドバイスされていますか。
それぞれの項目について、あてはまる数字に○をつけてください。

1	2	3
関わった患者が該当する場合、すべての患者・家族に説明している。	尋ねられた場合のみ説明している。	ほとんど説明していない。

・在宅医療の概要	1	2	3
・在宅医療の自己負担額	1	2	3
・介護保険の自己負担額	1	2	3
・福祉用具の設置・購入	1	2	3
・障害者手帳の交付	1	2	3
・障害者総合支援法の概要	1	2	3
・障害者への給付制度の内容について	1	2	3
・重度障害者医療費助成制度	1	2	3
・特定疾患治療研究事業（難病助成）	1	2	3
・高額療養費制度	1	2	3
・生命保険の生前給付金	1	2	3

問3-13 もし先生ががんの患者さんを診ている場合、A. 在宅緩和ケアと、B. 緩和ケア病棟、ふたつの選択肢について、先生はどのように説明していらっしゃいますか。以下のうち、もっともあてはまることが多いものひとつに○をつけてください。

1. Aを第一選択、Bを第二選択として説明している。
2. AとBを同等に説明している。
3. Bを第一選択、Aを第二選択として説明している。

問3-14 入院患者の在宅復帰を進める上で問題となる点について、以下の項目についてはどの程度問題になっているでしょうか。それぞれの項目について、あてはまる数字に○をつけてください。

1	2	3	4	5
特に問題ではない	…	徐々に改善しつつある	…	問題視している

貴施設の状況	
在宅重症者医療に対する医師の理解不足	1・2・3・4・5
在宅療養支援診療所の周知の不徹底	1・2・3・4・5
退院時共同指導の不徹底	1・2・3・4・5
緊急入院のベッド確保の困難さ	1・2・3・4・5

地域の診療所の状況	
在宅療養支援診療所の不足	1・2・3・4・5
緩和ケアにおける経験の不足	1・2・3・4・5
難病ケアにおける経験の不足	1・2・3・4・5
認知症ケアにおける経験の不足	1・2・3・4・5

患者・家族	
経済的な問題	1・2・3・4・5
家族介護力の不足（高齢であるなど）	1・2・3・4・5
家族の絆の問題	1・2・3・4・5

訪問看護・介護事業所等	
訪問看護事業所の不足	1・2・3・4・5
訪問薬剤指導管理を行う調剤薬局の不足	1・2・3・4・5
訪問介護事業所の不足	1・2・3・4・5

問3-15 入院患者の在宅復帰を進めるために、先生が医局や看護部あるいは病院全体に対して主体的にはたらきかけている活動はありますか。あてはまるものひとつに○をつけてください。

<p>1. ある。</p> <p>具体的に：</p> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 100px; width: 80%; margin-left: 20px;"></div>
<p>2. ない。</p>

4. ご自身について

問4-1 ご自身について、以下の項目にお答えください。なお、医療機関名、所在地（市区町村名）は、必ずお書きください。

医療機関名（必須）										
所在地	〒 —		市区町村名 （必須）		市区町村					
電話番号										
臨床経験年数		（ ）年		診療科（ ）科						
貴医療機関の 診療科 (あてはまるもの すべてに○をお つけください)	01	緩和ケア	02	内科	03	心療内科	04	呼吸器科		
	05	消化器科	06	胃腸科	07	循環器科	08	アレルギー科		
	09	リウマチ科	10	小児科	11	精神神経科	12	精神科		
	13	神経科	14	神経内科	15	外科	16	整形外科		
	17	脳神経外科	18	呼吸器外科	19	心臓血管外科	20	こう門科		
	21	産婦人科	22	産科	23	婦人科	24	眼科		
	25	耳鼻咽喉科	26	気管食道科	27	皮膚科	28	泌尿器科		
	29	リハビリテーション科	30	放射線科	31	麻酔科	32	口腔外科		
	33	その他（ ）								

～以上でアンケートは終わりです。ご協力誠にありがとうございました。～